



2011. 2. 10
No.165

編集 樋口 みな子

E-mail minginga@agate.plala.or.jp
<http://briefcase.yahoo.co.jp/bc/ginganews150>
郵便振替「銀河通信」
02740-7-56535
(郵送6号分1,000円)

野幌は20年ぶりの大雪です！



1月中に銀河通信の発行を予定していましたが、この1ヶ月、さまざまなお知らせがありました。

1月6日から野幌に降りはじめた雪は10日間で240センチ。連日、雪かきに終わりました。左の写真は2月1日に自宅前から写したのですが、積み上げられた雪は2mを超えています。札幌は少ない地域もありますが、厚別区や東区も豪雪で、夫は車で東区まで1時間40分かかって通勤しています。

豪雪がちょっと落ち着いた頃にパソコンが起動しなくなりました。山岳会の連絡も通信の編集もパソコンでしてきましたので、不自由で

困りました。データの大部分は保存していましたが、失ったデータもありました。過去の銀河通信と写真が無事だったのが何よりでした。ずいぶん昔になりますが、家族の病気で銀河通信が発行できなかった頃を久しぶりに思い出しました。手書きの頃のことです。もう手書きの時代には戻れそうにありません。でもパソコンに使われるのではなく、上手に使いこなしたいですね。

3つ目が父の容態の急変です。肺炎で高熱が続いていて、母や私の家族で深夜に病院に駆けつけた時には、苦しそうな息遣いでしたし、反応も悪く心配しましたが家族に会って安心したのか、容態は好転。埼玉から次女（私の妹）も駆けつけてくれ、無理かなと思っていた2月5～6日の日本山岳会の雪崩講習会にも参加することが出来ました。

右の写真は元旦の野幌森林公園です。厳かな初日の出に、父の長生きと家族の健康、安全に登山が楽しめるようにと祈りました。季節はずれでごめんなさい。

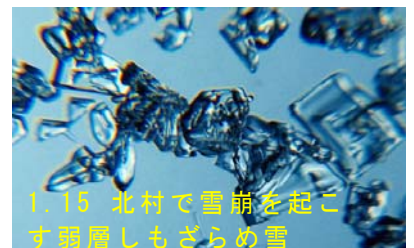
1月15～16日にあった岩見沢市北村にある北の生活館での雪崩研修会が、いつもの雪崩講習会よりリラックスできて楽しかったです。元低温科学研究所教授の秋田谷先生のお話はいつ聞いても興味深いです。今年は各地で豪雪のニュースが多いですね。年末には鳥取の大山スキー場で雪崩事故でスキー場職員4人

が亡くなりました。新雪雪崩の怖さをまざまざと教えてくれました。東北では、屋根の雪下ろしをしないと家がつぶれるとお年寄りがとても困っているとニュースで報じていました。一人で暮らしている母は連日の雪で気が滅入ったと嘆いていました。いざというときに助けてもらえる制度が江別にもあればいいと思います。

今年も健康で山登りを楽しみ、銀河通信でお伝えできたらと思います。今年もご愛読いただけますようお願いいたします。（右写真は北の生活館の簡易な顕微鏡に雪を載せてデジカメで写しました。）



野幌森林公園の初日の出



1.15 北村で雪崩を起こす弱層しもざらめ雪

旭岳で講師養成の雪崩講習会



積雪断面観察の方法を学ぶ

概要：2010.12/18旭岳宿泊施設10:30 11:30~12:30 ミーティング 13:30~16:00 フィールドテスト実習とビーコン訓練 16:30~18:00 反省会 19:00~20:30 講義12/19 9:00 ロープウェーで姿見の池 9:30~11:30 積雪断面観察 12:30~13:30 反省会

旭岳雪崩講習会は12月18日~19日、旭岳温泉にある北海道教育大学教育研究施設で講師養成クラス1年目5人、2年目3人、講師団や研究会員など30人の参加で行われました。私は1年目、主催は北海道雪崩研究会です。

全体ミーティングで講師養成クラス生がひとりひとり旭岳の積雪

や雪崩の予測をしました。一週間前からアメダス等から気象の情報をそれぞれに得ておき、弱層の形成の予測をしたのですが、堂々と発表するメンバーに圧倒されながら、私は初めての経験で冷や汗でした。

午後からフィールドテストを実習。受講生（基本クラス）に私が実際に四角柱を掘ってシャベルコンプレッションテストをやってみせなくてはなりません。スコップの使い方が下手でどぎまぎしました。手首、肘、肩を支点にしたたたくのですが、斜面にまっすぐでなかったり、説明することの大変さがよくわかりました。シャベルコンプレッションテスト、円柱テスト双方で肘でずれ、評価3でした。宿泊所では夜遅くまで交流が続きま



した。2日目は講師クリニック。ロープウェーで姿見の池まで行き、1200m付近で6班に分かれて、積雪断面観察を行いました。まず1,5mの高さの断面を掘り、10センチごとに串で刺して印をつけ雪温を計り硬度と雪質を観察して行きます。実際、山に入った時にするには時間がかかりますが、気象と弱層の相関性が理解できました。

更に下がって森林帯でも観察しましたが先の断面とは違って積雪の多様性も見ることができました。

自分がよく分かってなければ人に説明することが出来ません。でもたどたどしくでも話すことで、自分のウイークポイントが何であるかが分かったのが良かったです。

プレ雪崩講習会ー中山峠



2月に開かれる留寿都実習講習会に向けて、受講生が合格できるようにプレ講習会が、1月23日、60人の参加で中山峠で開かれました。

当日、江別は深深と雪が降っている。中山峠集合が8時なので江別を5:40に出発。百松山岳会のKさんの車で途中、豊平の同会員の女性と乗り合わせて現地には早めに到着しました。江別は豪雪なのに豊平区も南区、定山溪は雪が少なく驚きでした。スキー場は閉鎖されていますが、雪崩講習会のために駐車場を除雪してもらいました。私は講師養成講座の1年目。基本クラスを担当し、5人の受講生にK講師と私たち2人がサポートしました。打ち合わせもそこ

そこに講習地に向かうグループを横目に私たちのチームはミーティングをしっかりと行い、スキー場から左に100m入った深雪の斜面を利用しました。シャベルコンプレッションテストを講師が作ってみせ、私が手首、肘、肩を支点にシャベルをたたくと、13回目（肘）で亀裂が入り、評価3でした。断面はきれいな新雪でした。基本クラスのメンバー5人もそれぞれに実施し、たたく力の差は多少ありましたが同じ結果でした。円柱テスト、スキージャンプテストと進みました。午後からはビーコン搜索、アナログビーコンの人が2人いましたが5分以内で搜索。反対にデジタルでいいところまで迫っているのにピンポイントできなかつたりと意外な結果でした。持っているビーコンの特性をしっかりとって搜索することが大事だと理解しました。



自らが伝える立場になって初めて、講師の現場での経験が技術に反映されていることを実感しました。無知が一番怖いです。樹氷が美しく、寒かったです。中身の濃い講習会を終えました。

日本山岳会で雪崩講習会を開き、会員に雪崩に遭わないための技術を伝えるという役割を担って、少し前進できたように思います。



膝までのラッセルにもめげず 一羊蹄山

行動記録

1/8日 8:00札幌発→10:30京極で買い物→12:00山荘

1/9日 9:00山荘発→12:00羊蹄山1050m付近→13:30山荘

1/10日 9:00山荘発→12:00羊蹄山1,120m付近→13:00山荘
→14:30山荘発→17:00札幌着

1月8日、朝から吹雪。8時に札幌駅に集合し7人で出発。ニセコ方面に雪崩警報が出されて山荘までの道も深い雪でした。のんびりと山荘で過ごしているうちにグレンデスキー組も続々と集まり賑やかな食事と宴会になりました。

9日、雪は降っているが風もなく穏やかで安堵。グレンデ組を送り出し、私たち10人もビーコンチェックをして9時に出発。膝までのラッセルを交代で進むも深いので大変。12時に1050m地点まで行くのが精一杯でした。アルペンスキーを長年やっているS山さんの華麗な滑降。私はそのトレースを利用させてもらったの滑降でした。雪が重く転んだら体がすっぽり埋まって大変なので、慎重になりすぎました。一番勉強になったのは、ラッセルの仕方。力任せでラッセルしないで進む方法を学び、それ以後は皆に遅れることなく進めました。風もなく穏やかでしたが900mを超えると寒さが厳しかったです。13:30山小屋到着。

10日、メンバーは7人に。羅臼から参加の若いレンジャー2人が加わり、小屋番2人を残して9時に出発。K口さんらは「森林限界まで行こうよ」と張り切っていましたが、昨夜降った雪で、踏み跡はすっかり消えていて、重い雪のラッセルは想定外でした。900mを超えると、山小屋が小さく見えて、木々の間から青空が見えました。

午後からは天気崩れるとの予報で、1120m地点、12時で終了。前日の反省会で「もっと果敢に滑ったら楽しくなるよ」のアドバイスをもらいこの日は前日よりスピードに少し乗れた気がします。この日のメンバーは皆健脚。とにかくラッセル交代の時のわずかな時間の休憩だけで、水や、行動食を取りながら進みました。深雪で1回転倒しましたが、なんとか、先頭に行くS幸一さんのトレースについて滑降できました。感心したのは、スキーが上手なだけでなくコース取りの上手さでした。ラッセル、滑降、いろいろと勉強になりました。13時、京極山荘到着。山スキーを満喫した2日間でした。参加者札幌山の会メンバー6人と会員外4人



日本山岳会 3年目の雪崩講習会

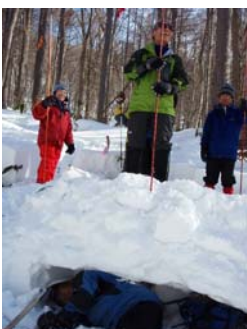
4年前の雪崩事故で4人の仲間を失いました。雪崩事故に遭わないために気象や、雪崩を引き起こす弱層を観察する技術、もし雪崩に遭遇したときのためのセルフレスキューを学ぶ講習会を実施するようになって3年目になります。3月からオホーツク分水嶺踏査が始まります。

2月5日はりんゆう会館で机上講習会、6日は藻岩山スキー場横で実地

講習会が講師も含めて22人の参加で開かれ、真剣に学びました。

雪崩研究会からの応援をいただきながら今年からS木さん、U田さん、私が講師として受け持つことになりました。人前で話すのは苦手ですが、何度も話すことで雪崩理論も身に付くのではと、受講者には申し訳ないですが一緒に学んで行きたいです。

札幌南区にある藻岩山スキー場は雪が少なく、シャベルコンプレッションテスト等のピットテストをす



るには十分な雪ではなかったですが、各チームで全員が行いました。CT、円柱テストで、肩でずれて評価2。スキージャンプテスト(右写真)はジャンプ2回でずれて先の方法と同じ結果でした。

セルフレスキュー訓練はビーコンに慣れたのか、スピーディな捜索が出来て大成功でした。横穴を掘って、プローブで人体の感触を確認(左写真)して見ました。雪崩には遭遇したくないですが知識はたくさんあったほうがいいですね。

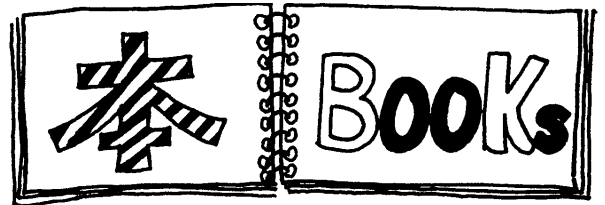


2.6 スキージャンプテスト
で弱層を観察



北海道の登山史

安田 治著 北海道新聞社
1800円＋税



著者の安田治さんは、現在北海道勤労者山岳連盟の会長を務め、長い登山活動を行ってきました。もう一つの顔はNPO法人北海道雪崩講習会の理事であり、講師として多くの

登山者に雪崩に遭わないための技術を伝える啓発活動を行っています。

本書は、山岳崇拜、信仰登山の時代からの歴史をたどり、日本アルプスを中心とする登山の発展と北海道の登山の始まりから現代に至る歴史をまとめています。

北海道では松浦武四郎による各地の踏査から始まりましたが、山の開拓は北大生による山スキーによってなされました。1913年に手稲山に初登頂。17年羊蹄山、18年奥手稲、砥石山、翌年に百松沢山等、22年までに旭岳、芦別岳、黒岳、無意根山登頂しています。本州では近代登山による山岳の開発は夏山の尾根から溪谷へと発展しましたが、北海道はスキー登山から始まったのです。先人のフロンティアスピリットあふれる探検によって、多くの山が開かれたことに改めて畏敬の思いがわいてきました。私はこの部分を読むだけでも山をみる目が変わりました。歴史を知れば、山を愛するとは美しいままの山を大事にすることだと思いを新たにしました。

安田さんは、日本独自の登山文化は、近代登山を受け入れる素地を整えた時期に、アルピニズムを取り込み、信仰登山のシステムを活用して近代登山を立ち上げて発展させたと語っています。

戦後、3人以上が死亡した北海道での山岳雪崩事故にもふれています。死者407人中、雪崩や雪庇の崩落事故で亡くなっている人は79人と40%を雪崩事故が占めていること。北海道雪崩研究会の立ち上げの契機となりました。2月3日の朝日新聞に1940年のペテガリ岳遭難のエピソードが載っていました。北大山岳部の学生8人が亡くなった事故の時、捜索活動もした山岳画家の坂本直行さんは「北海道の山」に「遭難後は日高連峰が美しく見れば見えるほど胸がふさがってその冬の期間中、暗い気持ちから解放されなかった」と書いたとあります。

この本を出版するにあたり、図書館などで資料を当たったことは言うまでもありませんが、日本山岳会の高澤光雄さんも貴重な資料を提供しています。道内の主な山の詳細な登頂記録が年表にまとめられており、登山の歴史と文化を知る教科書として活用して欲しいと思います。今までになかったのが不思議なくらいです。願わくは、登山史に詳しい高澤さんが山を開拓した人々の物語を書いてくれたらありがたいなと思います。

空白の五マイル

角幡 唯介著 集英社 1600円＋税



最近読んだ本ベストワンの面白さでした。

チベットに世界最大のツアンポー峡谷があります。そこには今なお人跡を拒む「空白の5マイル」と呼ばれる区間が未踏のままに残っていました。インド国境に近い峡谷の奥地に2度にわたってたったひとりで分け入り探検した記録が本書です。2010年度の開高健ノンフィクション賞を受けました。

著者は早大探検部員だった大学4年の時に1冊の本でツアンポー峡谷に出会います。1924年に英国隊が踏査しましたが険しい地形に阻まれて5マイルを残して調査を断念。その後もいくつもの調査隊が挑戦しましたが、未踏のままです。著者は地元の人たちにも無謀だと言われながらも2002年に単独で挑戦するのです。ジャングルの中で格闘しているうちに日没になり、足を置いた地面が抜けて、滑落。転がりながらつかんだ細い木が手のひらからずりと抜けて、自分はもう死ぬんだと覚悟した場面は臨場感あふれます。運も味方したのか、15m滑落して、大きなマツの木にザックがぶつかり止まったのです。数々の苦難を乗り越えて、空白の5マイルも、誰にも知られていなかったホクドルンの伝説の洞窟も発見します。

それだけでもすごい探検だと思うのに著者は「もっと深いところでツアンポー峡谷を理解してみたい。もっと奥深くに行って、どっぷりと浸かり、もっと逃げ場のない旅をしてみたい」と5年間勤めた朝日新聞記者を退職。2009年11月、再びツアンポー峡谷に向かいました。前年にチベットのナサで暴動が起きエベレストが登頂禁止になりました。その2008年4月に私は日本山岳会の氷河の衰退を調査するトレッキングに参加しました。ポカラの郊外にあるチベット難民が暮らす地域にある寺院では、たくさんの僧侶が中国による宗教弾圧で犠牲になった若い僧侶の成仏を祈っていました。まだ幼い少年の姿もありました。（銀河通信150号より）

著者は、中国が外国人に解放していない地域に無許可で乗り込みます。危険がいっぱい。最大の課題は警察に発見されないことだったと言います。村人たちも無許可の旅人を案内して警察に通報されることを恐れ、著者は協力をことごとく拒否されます。驚きは辺境の地でも携帯電話が普及していたことでした。

前回よりもはるかに厳しい探検でした。限られた装備と食料だけで、険しい地形や、寒波。渡ろうとした橋がなかったり、飢えにも苦しみます。ツアンポー峡谷をようやく脱出したのは、ギャラを出発してから24日目でした。命がけの探検に圧倒されました。

自身の探検に1924年までのツアンポー峡谷探検の歴史を紹介し、93年の同地への大がかりなテレビ取材で、早大カヌー部の青年が激流に飲み込まれて死亡したいきさつも関係者に話を聞いて検証。ツアンポー峡谷の魅力と過酷さを客観的にとらえていて、この探検に厚みを持たせています。

著者は「二回の旅で得られた心の震えはこれ以上ないもので、同じような感動を体験することは、今後の人生ではもう起きないかもしれない。ツアンポー峡谷の旅を終えたことで、私は生きていくうえでもっとも大切な瞬間を永遠に失ったともいえるのだ」。と書いています。

私は命をかけた冒険など生涯経験することはないと思いますが、知らない世界と一緒に同行しているような面白さに胸が躍りました。



井上ひさしの 言葉を継ぐために

井上ひさし 井上ユリ 梅原猛 大江健三郎
奥平康弘 澤地久枝 鶴見俊輔
岩波ブックレット 500円+税

2010年4月に急逝した井上ひさしさんを悼み、9条の会のメンバーが痛惜の念をこめて語った人と作品です。

妻の井上ユリさんは井上ひさしの作品について「平和を守るといって、とても美しいけれど残念ながら使い古されてしまった言葉を、普通の人々の日々の暮らしが穏やかに続く、少しでもよりよく続くというふうに置き換え、普通人の想像力を刺激し、むずかしいことをわかりやすくおもしろく伝えようと思いました」。と語っています。

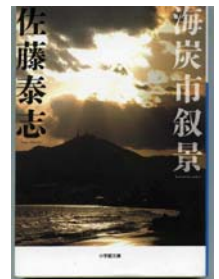
澤地久枝さんは、舞台にも映画にもなった「父と暮らせば」を勧めています。この映画は銀河通信でも紹介しました。広島に原爆が落ちたときに家族を失い、たった一人生き残った娘の物語です。自分が生き残ったことをとても後めたく思いながら日々暮らしているのです。父を救うことが出来なかったことに負い目を感じて、青年との恋もあきらめようとする娘。娘を案ずる父は幽霊になって出てきて「お前は生き残ってくれ、私の分も生きてくれと言ったんだよ」と言います。娘はいろんな葛藤を超えて一步を踏み出そうとします。娘が父に向かっていう台詞が「おとったん、ありがとありやした」でした。何と温かい響きを持った言葉かと澤地さんは語っています。

小林多喜二を描いた「組曲虐殺」では「あとに続く者があるのを信じて走れ」という台詞があります。

憲法9条への深い思いを作品にこめた井上ひさし。その言葉から勇気ももらってきました。井上さんの温かくて豊かな言葉をかみしめ憲法9条を守っていく一人でありたいです。

海炭市叙景

佐藤 泰志著 小学館文庫 650円



著者は何度も芥川賞候補になり、これからの活躍が期待されていましたが、1990年41歳で自ら命を絶しました。私と同世代の作家です。

著者の故郷、函館市をモデルに、「海炭市」という架空の街が舞台に普通の人々が織りなす18の人生が描かれています。

炭坑を解雇された兄とその妹。事業も家庭もうまくいかないガス店の若社長。妻との不和に悩むプラネタリウム職員。あと2年で定年を迎える路面電車の運転手。都市開発で立ち退きを迫られるも拒むおばあさん。彼らの悩み、苦しみ、悲しみが浮かび上がってきます。人々の物語であると同時に彼らを包み込む街の情景が細密かつ温かく描かれ、次第に寂れてゆく街の物語にもなっています。

この作品が生まれた20年前はバブルがはじけた時期ですが、地方都市の疲弊が始まっていました。この作品の時代と、不況で失業者が増え、高校や大学を卒業しても働けない今の状況と重なります。懸命に生きているのにどうにもならない悲しさが丹念に描かれています。それでも希望につながうと努力する登場人物たちに共感しました。

久しく絶版になっていたのが、映画化が決まり、その制作実行委員の一人がツイッターで書き込んで文庫の復刊が実現したそうです。函館に住んでいる方、そうでない方も、是非、映画と一緒に本もお薦めします。



「海炭市叙景」 熊切和嘉監督

紹介した本の映画化です。函館市の映画館の支配人らが制作実行委員会を立ち上げ、市民から1200万円を集めて制作されました。

函館市民が多数、ロケに協力。プロの俳優に混じって重要な役を演じた人もいます。

映画

原作の炭坑は造船所になっていましたが、監督が選んだ5つの物語がオムニバス形式で語られます。それぞれに困難を抱える人々の生活を描きます。

造船所で働く兄と妹はリストラで職を失います。明日の生活費もないなかで、なけなしのお金を握って初日の出を見に山に登り下山のロープウエーに乗るお金がない兄は歩くことに。ベンチで待ち続ける妹。妻との不和に悩むプラネタリウム職員。ガス屋を継いだけれど、仕事も再婚した妻ともうまく行かない若い経営者。つらい人生に向き合っている人々と寂れていく街の風景が詩的に描かれます。

海炭市は架空の街ですが、函館がモデルになっています。観光都市の函館ではなく、不況や、過疎化などに苦しむ地方都市の現実が浮かび上がってきます。それでも人々は厳しい現実に向き合い、光を探そうとしているのです。函館山の初日の出は希望を象徴していました。人々の悲しみを乗せて走る路面電車が効果的に使われ、印象的でした。

今年は豪雪で大変な思いをしましたが、函館の雪景色は美しく、懸命に生きている人々の悲しみが雪のように降りつもりに心にしみました。

熊切監督は帯広出身。「帯広に住む家族や友人を思いながら撮った」と語っていました。41歳で亡くなった原作者の佐藤泰志さんの故郷に寄せる思いが詰まったこの映画は、函館市民の財産になるのでしょうか？

「ロビン・フッド」 (米) リドリー・スコット監督

世界に知られる伝説の義賊、ロビン・フッドが自由を求める庶民のために闘います。

12世紀末、十字軍兵士ロビン・フッド(ラッセル・クロウ)はフランスで戦死した英国王の王冠と暗殺された騎士の剣を持って帰国。王冠は王の母に剣は騎士の妻マリアン(ケイト・ブランシェット)に届けます。戦死した王に変わって弟が新王になると、重い税を国民にかけ作物は全部搾取し国民を苦しめます。

新王に政策はなく、腹心はフランスと内通。内乱を起こそうと企てます。王は人間として良心のかけらもない暴君でした。ロビン・フッドが貴族たちに「法の前の人民の自由を」と訴える場面がすごく良かったです。暴君は認めざるを得なくなります。海岸いっぱい上陸したフランス軍を迎え撃つロビン・フッドたち英国軍の闘いが壮観でした。中世ヨーロッパの歴史を背景に自由をと訴えた、ロビン・フッドは時代が作ったヒーローであったことが興味深く感動しました。



「愛する人」 (米・スペイン) ロドリゴ・ガルシヤ監督

3つの母と子の愛情物語です。

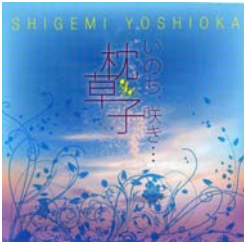
母の介護をしながら働くカレン(アネット・ベニング)は51歳。14歳で出産しますが、幼すぎたために生まれた娘は養子に出されました。37年間、我が子には会っていません。37歳の娘エリザベス(ナオミ・ワッツ)は有能な弁護士になっています。子どものできないルーシーは夫と養子縁組を待っています。

カレンは、娘への思いを出せない手紙に書きつづり、自分の母とは分かり合えずに暮らしてきました。エリザベスも母に捨てられたという癒しがたい傷から、養子先の家族とも恋人とも深く関わることを拒み続けます。カレンもエリザベスも、深い哀しみを背負って、人を愛することを拒否して生きてきたのです。カレンの母は、娘への思いを語ることなく死んでしまいます。死後、家政婦から「あの子を不幸にしまった」と語っていたことを知り、「どうして私に言ってくれなかったの」と慟哭するのです。

予期せぬ妊娠をしたエリザベスは、結婚はせず、一人で生み育てることを決意します。ふと出会った盲目の少女に、内面を語り母を捜そうという思いになるのです。いつも鎧をつけ、周りの人たちにとげとげしい態度をとっていたカレンが、同僚の愛情を受け入れ一緒に暮らし始めた頃から、表情が変わります。カレンの優しい笑顔がすてきに輝きます。カレンは「ずっとあなたを思って生きてきたのよ」と伝えたいと娘との距離を近づけようと努力し始めるのです。

子どもを思い続ける母たち。最後は思いがけない展開を見せますが、エリザベスは子どもを産むことで母との絆を取り戻すのです。

アネット・ベニングとナオミ・ワッツが複雑な感情を見事に演じています。原題は母と子です。



いのち咲き・・・枕草子

歌・作曲：吉岡しげ美

販売 アメイジングDC 2500円

与謝野晶子や岡本かの子、金子みすゞなどの詩に曲をつけて歌ってきた吉岡しげ美さんの新しいCDです。

吉岡さんとの出会いは札幌でのコンサートでした。知里幸恵のアイヌ神謡集に曲をつけて歌ったのです。東京のコンサートには遠くて行けません、一人でCDを聴く時間もいいものです。詩が心にすっと入ってきます。励まされたり、救われたり。今回の新しいCDはいのちをテーマに選ばれた詩に曲をつけました。「いのちと向き合い、いのちを感じ、いのちを思う。たくさんのあたたかい、いのちとともに・・・今日も、明日も・・・。愛、ゆたかに、いのち、ゆたかに・・・」。吉岡さんのメッセージです。

いのち（工藤直子）枕草子（清少納言）いのちの短歌三首（岡本かの子）あの人（吉原幸子）この道（金子みすゞ）等が収められています。どの曲も心に響きますが、亡き人を偲んで歌う「あのひと」は泣けましたし、四季を歌った枕草子は壮大な風景が目に浮かぶようでした。

巻頭にも書きましたが、この1ヶ月半落ち着かない日々でした。本は年末に読んだものばかりです。橋本誠二さんの「あの頃の山登り」もメスナーの「裸の山 ナンガ・パルバート」も読みかけのままです。エポック的な写真で2ヶ月を振り返りたいと思います。



左写真：10, 12. 26 ハンセン病回復者と北海道を結ぶ会の忘年会
日頃、さまざまな活動で忙しく初めて会員8人が揃いました。

右写真：1. 3 馬追丘陵から望む石狩平野



中央3枚の写真：1. 9 羊蹄山でスキーを楽しむ
早朝、少しだけ顔を見せた羊蹄山。夜は京極山荘でギターが懐かしかったです。



下写真：1. 15～16 北の生活館（北村）での雪崩講習会 秋田谷先生の山小屋での学びは新しい知識が増えて楽しい。（写真提供・鈴木貞信さん）



今年もご愛読いただけますようよろしくお願い致します。（みな子）



1. 30 金星と月 星の観測をしていた夫から「幻想的だよ」と教えられました。AM5:30の撮影です。



市民運動で、大学と社会とをつないでくれた北大の小野有五さんが3月定年を迎えます。最終講義を下記の日程で開きます。私もその準備を進めている発起人の一人です。読者の皆様、友人をお誘い合わせでご参加ください。自由にご参加出来ますが資料の用意もありますので、私までお知らせください。



小野有五教授定年記念講演会 —大学と社会を結んで25年—

日時：2011年3月18日（金）14：00－17：00

場所：北海道大学 クラーク会館 大講堂（札幌市北区北8条西8丁目）

http://www.vetmed.hokudai.ac.jp/coe/event/map_clark.html

発起人：白岩孝行（代表：北海道大学）福島路生（国立環境研究所）吉川謙二（アラスカ大学フェアバンクス校）石丸聡（地質研究所）澤田結基（産業技術総合研究所）小高信彦（森林総研九州支所）樋口みな子（日本山岳会）

プログラム

- 14：00－05 発起人代表挨拶 白岩孝行（北海道大学 低温科学研究所）
- 14：05－15：30 最終講義 小野有五教授
「地球科学者から環境科学者へ：大学と社会を結んで25年」
- 15：30－15：45 休憩
小野有五先生の足跡とその後の発展
- セッション1 “氷河・周氷河研究をどのように市民に伝えるか？”
- 15：45－16：00 「俺は“トンネル・マン”：ユーチューブで永久凍土を市民に伝える試み（DVD上映付）」
吉川謙二（アラスカ大学フェアバンクス校）
- 16：00－16：10 「それは風穴研究から始まった・・・子どもたちに科学する楽しさを伝える」
澤田結基（産業技術総合研究所）
- セッション2 “森と川の研究と保全”
- 16：10－16：20 「イトウの研究・森と川を語る会をつくったころから現在の取りみまで」
福島路生（国立環境研究所）
- 16：20－16：30 「北大キャンパスのアカゲラ研究から南の島のノグチゲラ研究まで」
小高信彦（森林総合研究所 九州支所）
- セッション3 “市民運動”
- 16：30－16：40 「市民運動からみた小野先生の役割：千歳川放水路・サンルダム・富川訴訟」
市川守弘（札幌弁護士会）
- セッション4 “アイヌ民族の権利回復運動”
- 16：40－16：55 「先住民族サミットと七五郎沢のキツネ（DVD上映5分）」
結城幸司（アイヌ・アート・プロジェクト）
- 16：55－17：00 閉会の言葉 花束贈呈

購読料をありがとうございます（敬称略）2010.12.11～2011.1.31

田中清子（岩見沢市）5,000円（カンパ含む）宮下弘（札幌市）3,000円（カンパ含む）植田惇慈（札幌市）3,000円（カンパ）福原正和（札幌市）10,000円（カンパ含む）佐々木純一（雨竜町）3,000円（カンパ含む）高野ケイ（札幌市）2,000円（カンパ含む）吉岡しげ美（東京都）5,000円（カンパ含む）太田肇・朋子（鎌倉市）2,000円（カンパ含む）伊藤泰弘（札幌市）1,000円 中川路朋子（江別市）5,000円（カンパ含む）

福原正和カレンダーと書籍、福田光子（秋田市）カレンダー 津村靖代（札幌市）切手1シート 疋田英子（稚内市）切手1,000円分と魚

合計35,000円は印刷と送料に使わせて頂きます。ありがとうございます。今年最初の通信の発行が遅れましたことをお詫びします。

右 版画家 渋谷正巳さん（旭川市）の賀状
日本山岳会会員

